

学校教育目標
『誠実』『自発』
定時制の特色と少人数教育の特徴を活かし、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、地域社会で自立し貢献できる人材を育成する。

重点目標(中・長期的目標)	総合評価					
①働きながら学ぶ・・・職業観の育成、基礎基本の徹底	不登校経験者が過半数を占めるが、本校で過ごす中で不登校を克服していく生徒は多い。学校生活やアルバイトを通じて自信がつき、自分の目標や可能性にチャレンジしていく姿勢につながっている。学習面では基礎基本を重視しつつ、少人数の利点を活かして個々のニーズにも対応した指導を行っている。生徒とのふれあいを重視し仲間を大切にすることを醸成することで、アットホームな学校作りに努めている。多くの生徒は教室や仲間が自分の居場所となっている。一方で、なかなか学習に気持ちが向かない者、対人関係の難しい者、精神的な不安定さを抱える者などもある。そうした生徒にはしっかり寄り添って、自分がどうあるべきかを考えさせ、支えて行きたい。また外国ルーツの日本語力不足の生徒がおり、その対応の充実が課題である。生徒一人ひとりにきめ細やかに対応し、彼らの自主・自立性を育て、将来を応援していけるよう、職員一丸となって努力していきたい。					
②仲間を大切に・・・いじめ・暴力の根絶						
③自ら考え、行動する・・・自主・自立						
今年度の重点目標						
1 定時制の特色と少人数教育の特徴を活かし、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、地域社会で信頼される人間として自立し、貢献できる人材を育成します。						
2 相手を尊重し、自己を肯定できる、丸く豊かな心を育てます。						
評価項目	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
① アルバイトの奨励 (キャリア教育)	就業率はR6年12月現在38名中28名(約74%)で昨年と同じ。ほぼ全員アルバイトだが一部に家業に携わる者もいる。就業経験を有意義に活かしたい。(就業率:H30 73%→R1 66%→R2 44%→R3 56%→R4 58%→R5 58%→R6 74%)		○			登校までの時間を有意義に使い、社会体験を深める観点から今後もアルバイトを奨励する。様々な事情を抱えた生徒たちが、仕事を体験することの意義を示しつつ、意識づけをしていきたい。求職活動に関しても、ハローワークなど他機関との連携も進めていきたい。
② 少人数学習による基礎基本の徹底 進路につながる資格取得 (学習指導)	英語、数学の基礎学力養成に効果をもたらしている。全商簿記検定3級を1名が合格、全商ビジネス文書実務検定3級を2名が合格、全商ビジネス計算実務検定普通計算部門電卓3級を1名が合格した。		○			少人数による指導のメリットを生かし、個々の生徒が学力を伸ばすことを楽しめるような教材を工夫する。各種検定受検を目指すことで学習意欲の向上に繋げたい。
③ 生徒の変化を見逃さない、いじめ・暴力を許さない安心・安全な学校 (生活指導)	指導の対象となる問題行動も少なく、年間を通じてほぼ落ち着いた学校生活を送ることができた。一人ひとりに声をかけ体調や不安な気持ちがないか確認しながら指導できた。今年度は交通事故が多く、折りにふれ啓発指導した。		○			問題行動への対応や交通安全など、継続して指導していく。また、教員間で連携を図りながら、生徒が心を開きやすい環境を作り、「生徒の居場所」ができるようにする。
④ 生徒が主体的に取り組む校友会活動・学級活動・クラブ活動 (校友会)	校友会活動では、ほとんどの行事を生徒が主体的に運営することができた。課題として集団に加わることが困難な生徒に対する対応があげられた。クラブ活動では、規則を疎かにする場面がみられた。		○			引き続き生徒主体の校友会活動を行う。内容や実施方法を検討し、多くの生徒が参加できる校友会行事を目指す。クラブ規則の周知徹底を図り、けじめのある活動にする。
⑤ 卒業後の社会的自立と進路希望の実現 全日制進路室との連携 (進路指導)	進路指導室と連携を図り、計画通り進めることができた。4年生8名全員が内定をいただくことができた。	○				一人ひとりの希望に応じたきめ細かな対応に努める。
⑥ ユニバーサルな学習環境の整備 (教務)	不登校傾向、心身の不調、場面緘黙、日本語の能力不足など、さまざまな困難を抱えている生徒に対して、合理的配慮をしながら可能な限り個々の事情に応じた対応、指導を行った。しかし、やむをえず進路変更・休学等に至った生徒もいる。		○			心身の不調の生徒への対応としては、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーとの連携、保護者や家庭との連絡体制の強化などをいっそう図る。日本語能力不足の生徒に関しては、日本語教師の授業時間数の確保が重要で、今後も始業前の時間からの講座をお願いしていく。

領域	評価項目		評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教育活動	学級経営	1学年	基本的な学習・生活習慣の確立。互いに他者を認め合い個性を尊重する学級作り。	毎日登校・出席し、規則正しい生活がおくれるようになったか。クラスメイトとして互いに尊重しあえたか。	不登校経験者が非常に多い中で、毎日登校し、学習する習慣が身に付いてきた生徒も出てきた。一方で、学校での学びの継続が困難になった生徒も出てしまった。今までの関わりが少なかつたことから、社会性を少しずつ身に付けていく必要がある。		○		生徒とのコミュニケーションを大切にしていくとともに、保護者との連絡を密に取り合って、サポートをしていく。	
		2学年	自ら学ぶ姿勢を身につける。欠席を少なくする。コミュニケーション能力を身につける。	授業を自主的に受け、大切にできたか。欠席を少なくすることができたか。校内行事や友人関係に積極的であったか。	欠席なく、毎日登校できている生徒は一部である。また積極的に学習に向かう姿勢ができてきている生徒も少ない。今後、進路を意識させながら指導していく必要がある。		○		卒業後の進路について考えさせることで、日々の授業の大切さを認識させていく。	
		3学年	学習・校友会活動への積極的な取り組みと、自己の進路希望実現に向けた意識・学力の向上。	学習・校友会活動などに自ら進んで参加できたか。自己の適性・興味に沿った進路を意識した学習活動ができたか。	校友会活動を通じて上級生としての意識の向上が見られた。また、ほとんどの生徒は卒業後の進路について具体的に検討をし始めている。		○			卒業後の進路に向けて、いつ・何をするかを把握させ、目標までの道のりを明確にする。
		4学年	最上級生としての自覚を持った行動をする。卒業に向け、一人ひとりの希望進路の実現を図る。	学習・生活・校友会などで自覚を持った行動や活動ができたか。日ごろの指導を通して、生徒と保護者に常に進路を意識させ、生徒・保護者が希望する進路を実現することができたか。	校友会役員を務めた生徒も多く、最上級生としての行動が随所で見られた。進路についても希望通り進めることができた。卒業までに社会人としての自覚を持たせることが必要であると感じた。	○				進路希望は多岐に渡っているため、一人ひとりの希望を丁寧に聞き取り、きめ細やかな対応が必要である。
教育活動	教養	遠足 (3学年)	遠足で出向いた地域の文化や産業、歴史に触れ、豊かな感性を育てる。周囲との協調性を養う。	行事への参加を通じてその地域の産業の実情や文化、歴史の素晴らしさを再認識することができたか。集団の一員としての行動がとれたか。	お台場や浅草寺を見学し、首都・東京の文化や歴史を学び、感性を養った。また、集団行動を通して協調性を養った。多くの生徒は参加することができたが、不参加の生徒もいた。また今年度は予算上の条件により電車での実施としたが、参加生徒は問題なく対応することができた。		○		遠足も大切な学びの機会であることからできる限り多くの生徒に参加してもらえよう指導を工夫したい。また、バス運賃の値上げに伴い負担の少ない実施形態を考える必要がある。	
		生活体験発表	自己の生活体験を振り返って発表したり、それを聴いたりすることで、自分の生き方について考える。南信地区の各校代表の発表を聴いて、自分の生き方について考える。	生活体験発表大会に発表者あるいは聴き手として積極的に参加し、各自が自分のことを深く考えることができたか。校内大会および南信大会をスムーズに運営できたか。(本年度、南信大会事務局校)	発表は素晴らしく、聴く側の態度も良く、自分を見つめることができた。発表予定者の欠席が少なくて良かった。今年度は新たな試みとして振興会役員の方にも聴いていただいた。南信大会事務局校として、大会を成功裏に運営できた。		○		全校で特別時間割を設けて作文を書いたことで、作文未完成の生徒はほぼいなくなった。生徒全員の作文を、後日職員で回覧したことで生徒理解の一助となった。南信大会運営は大変だったが、この経験やノウハウを今後につなげたい。	
		視聴覚 図書	芸術鑑賞を通じて、豊かな心を育む。授業やその他諸活動を通じ、生徒が図書と親しむ楽しさや重要性についての意識を高める。	芸術鑑賞の企画・運営が適切で、生徒各々が題材について何かを考え、感じることもできたか。またそれを表現できたか。図書館の利用率が向上したか。また、日常生活の中においても読書をする生徒が増えたか。	イルフ美術館で武井武夫の作品を鑑賞し、地域の芸術に親しむ機会になったという声が多く寄せられた。二回の読書週間を設定し生徒が読書に親しむ機会となり、一部を除いて今までほとんどゼロだった貸し出し数が大幅に増加した。		○		美術館等の見学では、予備知識のない生徒にとっては見どころや目的意識が薄薄で、事前学習など意識を高める働きかけが必要である。生徒の日常の図書館利用につながるような働きかけをしていきたい。	
	人権	自己と他者の人権を認識し、考え、学校生活や進路選択などにおいて人権尊重の精神をもとに思考・判断することができる人権感覚を養う。	学校生活や進路選択に際し、望ましい人権感覚のもとに思考・判断することができたか。また、日頃の教育諸活動から生徒が直面する人権的問題に関して、生徒の意識を高めることができたか。	地元出身で芸能活動をしている成美さんを演者に迎えて芸能活動で学んだことを講演していただき、生徒の今後の仕事や学校生活への取り組みに活かす。(2月に実施予定)		○		本年度は特定の社会問題にかかわらない講演としたが、人権教育の内容は幅広いため、どのような内容の人権教育を行えばいいのか、4年間を通じた視野での検討を続けていく。		

教育活動	校友会	運動委員会	生徒主体で全校運動の企画・運営・進行を行う。運動を通して、他者と積極的に関わり、コミュニケーションをとる。	生徒が主体的に全校運動の企画・運営・進行ができたか。運動を通して、他者と関わることができたか。	生徒自ら運営、審判を行うことで生徒主体で進める事ができた。	○	○	○	○	生徒の実態に応じた内容、やり方を検討していく。
		出版	校友会誌「科」の発刊。校内での出版を行なう。内容の充実を図る。	校友会誌原稿を意欲的に作成できたか。校内での出版に伴い、製本作業等を協力してできたか。	2月より入力指導を予定。出版委員の活動も含め2月末の発刊を目指す。	○	○	○	○	充実した内容となるよう、出版委員会の生徒の活動を指導する。
		選挙管理	前期・後期の校友会役員選挙を確実に実施する。	選挙管理委員が協力して、公正・公平な選挙を実施することができたか。	立候補者や推薦人はしっかりと演説できて、良い選挙になった。立候補者に若干の欠席があったのは残念であった。選挙管理委員は、その職責をしっかりと果たすことができた。	○	○	○	○	立候補することをためらったり、人前に立つこと自体が難しい生徒も多いが、良い経験になるという意味からもアピールしていく。管理委員の生徒が、より積極的に活動できるように指導していく。
		定時制祭	生徒が主体的に、思い出に残る定時制祭を創り上げる。定時制祭を通じて社会性を育成すると共に、充実感・達成感を持つようにする。	生徒同士、生徒と職員、職員同士での協力・連携がとれたか。全員参加で協力して、思い出に残るものにできたか。	ボウリング大会では生徒の司会進行で主体的に運営することができた。生徒どうしの親睦の良い機会にすることができた。	○	○	○	○	集団に加われない生徒もおり、その対応が難しい。また、世代の特徴がボウリングに親しみのない生徒も増えている。実施方法や内容等含めて検討が必要である。
		クラブ	クラブ活動を通じて、他者と関わる力を身につける。種目ごとに、目標を設定し取り組む。	種目ごとに仲間と協力し、一丸となって目標に向かうことができたか。本校クラブ活動の規則を守り、活動に取り組むことができたか。	5名南信定通大会に参加。そのうち1名はバドミントン競技で北信越大会に出場することができた。規則を守った活動が求められる。	○	○	○	○	活動の前にクラブ規則を周知徹底する。クラブ加入者の練習参加率が低下しているため、ニーズに沿った活動を検討する。
生徒指導	生活指導	いじめを含む問題行動の把握に努め、問題行動が生じた際には迅速に指導を行う。生徒の登下校の手段を把握し、常に交通安全に留意させる。	悩みや不満を抱えている生徒への対応を、担任と連携してできたか。問題行動の改善に努めることができたか。挨拶や言葉遣いなどに留意し、互いを尊重しあう人間関係を築けるよう指導できたか。	目撃証人(無施錠)が2件、不審者の声掛けがあった。個々に対応するとともに全校集会等で注意喚起に努めた。人間関係のトラブルなど生徒間の関わりに対して、日頃から職員で協力して生徒への支援協力体制を整えることができた。	○	○	○	○	日頃の生徒の様子を大切に、様々な観点から声かけを実施し、よりよい環境をつくる。自転車事故等防止のため施錠、ヘルメット着用、保険加入等交通ルール指導の徹底を図る。	
	保健	生徒の状態や場面に応じた指導と対応で、心身の健康を目指す。	生徒の不安定な様子や小さなサインを見逃さなかったか。生徒とのコミュニケーションを大切にしながら指導できたか。健康意識の向上につながる指導・取り組みができたか。職員間で情報共有を行い、連携がとれたか。	「インターネットを介した性被害防止教育」「日常生活における薬物使用」についての講話を実施できた。職員間での連携を心がけ、生徒個々の心身に寄り添った対応、指導に努めた。	○	○	○	○	更なる開かれた保健室をめざし、生徒とのコミュニケーションを大切にしながらよりよい関係づくりを継続する。職員間での情報共有を密にし連携しながら、生徒への指導・支援を継続する。	
進路指導	進路指導	進路指導を計画的に行い、進路に対する意識の向上および早期確立	各学年のニーズに応じた取り組みができたか。	12月に全校への進路講演会を実施予定。今年度はより身近なものを考え、一昨年の卒業生(本校定時制)を講師として依頼し、体験談を中心とした講話を計画している。	○	○	○	○	低学年のうちから、進路を意識する機会を日常の様々な場面で持ち、3学年くらいからは具体的な行動が起こせるように指導を工夫する。	
	キャリア教育	アルバイトの奨励。仕事や就職試験などに興味を持たせる。職業観を確立する。	進路ガイダンスなどを通して職業観を確立することができたか。就職試験などで個別の支援、対応ができたか。	在学中の就業率は昨年度から大きく増加した。定時制の目標に鑑みて歓迎すべき傾向である。進路ガイダンスは、就労している先輩の話を企画した。進路指導に関しては、本年度は4年生全員が内定をいただくことができ、大変良い結果を残すことができた。	○	○	○	○	今後もアルバイトは奨励していきたい。進路に関しては、毎年全員内定は難しいかもしれないが、今後ともハローワーク・すわーくらいふなどの外部機関とも連携して内定に向けて努力を重ねていきたい。	
特別支援	校内支援体制の充実。多くの生徒がよりよい学校生活を送れるように、支援や必要に応じた個別支援の実施。各機関やスクールカウンセラーの活用。	校内の支援体制の充実と、生徒一人ひとりの実態の把握ができたか。個別の支援や対応ができたか。	生徒一人ひとりの状況の把握と、寄り添った対応を継続していく。カウンセラー等との連携を引き続き綿密に行う。	○	○	○	○	○	教員間での情報共有、生徒の状況把握を継続し、統一性を持って個々の支援、指導に繋げていく。必要に応じて外部機関との連携も検討していく。	
学校運営	地域との連携	定時制教育振興会	定時制教育振興会の充実をめざして、振興会活動の活性化を図る。	会員同士の親交と生徒の支援を担う振興会に対する意識の向上を図ることができたか。	予定どおり振興会の総会を実施することができた。校内生活体験会を正副会長が聞く機会を設けることができた。会員同士の交流を年度内に実施する予定。	○	○	○	○	個人会員の在り方・振興会費の有益な使い方を引き続き検討したい。
		PTA同窓会	保護者と学校との架け橋の一翼を担うべく、環境作りに努める。	保護者・同窓生・地域のみなさまに、学校生活の様子を知ってもらうことができたか。	保護者懇談等を実施し、家庭と学校との情報交換の場は確保できている。同窓会報の定時制コーナーに記事を載せてもらっている。	○	○	○	○	定時制でのPTA活動について、内容を検討したい。
	教務	総務	定時制の教育活動がスムーズに行われるための環境作り。全日制との協同。	先を見通した計画が提案できたか。HPや学校通信による情報提供がしっかりできたか。全日制との情報交換を密に行えたか。	昨年の経験者が多く、様々な業務を円滑にこなすことができた。全日制との情報交換はおおむね良好であったが、前期選抜の実施方法が変わる時期なので、さらに情報交換をしっかりと行っていきたい。	○	○	○	○	先々を見通して、余裕をもって業務に当たることを心がける。HP作成に関しては、ソフトがあまり調子の良いものではなく、今後とも検討すべき要素である。全日制との連携はさらに深めたい。
		防災	災害時、安全に避難できる体制づくりを目指し、防災に対する意識を高める。	春は地震・火災を想定した避難訓練において適切な行動ができたか。秋の防災教育は、消防署と日程が折り合わず実施できなかった。次年度は、実施の予定。	春の避難訓練は実施日の変更はあったが、内容としては予定通り実施することができた。また、秋から冬にかけて災害・防災についての学習を動画を活用することで、補填もできたのではないかと。	○	○	○	○	避難訓練は繰り返し体験することが大事であるので、次年度も確実に実施したい。
		清掃美化	清掃を通じて、校内美化の意識を高める。	一斉清掃に真剣に取り組むことができたか。教室や廊下等がきれいになっているか。	通常清掃する場所に加えて必要に応じて重点的に行う場所も真剣に一斉清掃に取り組むことができていた。	○	○	○	○	月に一度しかない一斉清掃なので、引き続き時間いっぱい取り組み、自ら気づいて行動できるよう声かけをしていく。
学習指導	「総合的な探究の時間」について、内容を確認させ積極的に学習するよう指導する。	少人数講座である利点を生かし、指導内容を工夫した授業になったか。「探究の時間」について充実した内容となったか。	金融教育(1月に予定)など社会人講師等を取り入れることで生徒が「探究の時間」に意欲的に取り組むことができた。また、他学年でも担当者による興味深い内容で実施できた。	○	○	○	○	少人数講座による「探究の時間」で扱うテーマや内容など、担当教員の更なる工夫が求められる。		
給食	毎日パンを食べてもらう。牛乳を飲む生徒を増やす。給食を通して、食べ物の大切さや『食』について関心を持たせる。	パン、牛乳の余りを減らせたか。生徒の食生活の改善・向上の指導ができたか。今後の給食の在り方や充実について検討できたか。	担任の先生方の声かけもあり、パンの食べ残しはほとんどなくなった。牛乳については今年度激減してしまった。牛乳の栄養価を学び、食生活が改善・向上するように1学年では栄養講座を実施した。さらに暑い時期に牛乳の希望調査を行ったが希望者は増えなかった。	○	○	○	○	○	給食の在り方、内容の検討を引き続き行なう。牛乳は注文希望の変更等を年度途中にも確認する。栄養講話を開くなどして食への意識を高めていく。	